



初江

○門限は蛙の合唱終わる刻

陽炎の中をぐるぐる三輪車

大藤まつり妣にと探す藤線香

富江

○田に写る学生寮へ夕蛙

○花ミモザ娘が可愛いげに嬉しげに

陽炎や文字盤ゆらす日時計の

美貴

○青空を見たくて蝌蚪の立ち泳ぎ

啄むは桜花びら雀の子

朝桜いまはわたくしだけのもの

弘

○忙しなく飯をかきこみ卒業す

陽炎をいつもと違う妻の来る

遠河鹿父の命日忘れけり

丞子

ソプラノの鳥合の手よろし昼蛙

学生の自転車の背かげろへる

天風や風車を目がけ芽木明り

郁子

○澄み渡るかじかの声や高嶺星

土塊かと思がまふ蝦蟇の太きいば

新緑の天守に向かふ国訛



酔花

蛙鳴く老猫「ねえ」と膝にくる

陽炎や耳をずらして黒い猫

鉛筆を持てば火星まで行ける

えり

○長寿薬カゲロウはんは買わせんよ

○何ごとか念じしがマに闇深し

天突くや菖蒲の一つ先に立ち

夕子

○若葉雨傘もささずに駆け出す子

ネクタイの結び目硬き入社式

蛙鳴くまたぞろ増える感染者

万貴

○ものの芽の空のいずこに祈らむか

○分け入って呼吸も緑に染めている

早足に帰郷の子らよ柿若葉

志津子

○荒畑に我も我もと葱坊主

陽炎の中をつつ切る路線バス

明かり消し眠れぬままに遠蛙

富子

○若苗と蛙が競い合唱す

陽炎が押しやった過去を炙りだし

桜色にて運ばれる誕生日



千代

○田一枚挟む家家夕蛙

大橋を立ち漕ぎの子ら陽炎へる

春風へ愛称で呼ぶチンパンジー

文子

○三椏の花の灯れる裏参道

理系の夫古文初めし蛙の子

水光る魚道の小鮎群れており

農子

○新緑や眠る幼の眉の濃し

砲弾や野は百万の蛙鳴く

陽炎の迫る戦車かトラクター

味元 昭次 作品

陽炎を黒猫が来るプーチンも

晩節を汚し夜陰のひきがえる

幼馴染の一人消えたり遠河鹿

★次回市民句会

【開催日時】

令和四年五月十八日(水)

午後一時十五分～午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます

